

【地域教育実践報告】

2023年における城西大学経営学部石井ゼミナールの活動

相川達哉*・新井優也*・荒川大介*・蘭晃人*・岩田佳佑*・倉田魁人*
高星悠斗*・中村祐葵*・萩原康陽*・畠山大地*・平井翔太*・野口祐貴*
石井龍太**

キーワード：ローカルヒーロー、アクティブラーニング

1. はじめに

本稿で取り上げるのは、石井ゼミ第8世代ヒーローとなる『ディフロンターJ』の、ゼミ生から見た運営録である。ローカルヒーローを用いたゼミ運営も、2023年で9年目となった。2022年度来在籍している学生たちは、過去の石井ゼミの中で最多の17名を数え、しかもその半数近くが2年次以前に石井ゼミを経験していた。それだけ手練れたメンバーで運営できた上、コロナ禍に対する社会の反応も（良し悪しは兎も角として）低減し、ヒーローショーの主たる場である地域の祭事は2019年以前の状況にほぼ戻って来た。加えてコロナ禍で祭事が減少した際に、城西大学の施設「北坂戸にぎわいサロン」を活用した自主イベントも継続出来、ポストコロナ禍のヒーローショーを作り上げていく時期ともなった。なお本稿のタイトルは2023年の活動となっているが、実際には『ディフロンターJ』が始動した2022年末の活動も一部含んで報告する。コロナ5類移行の前に当たることから、コロナ禍前にキックオフステージとしていた祭事は中止となり、どうするかは苦勞することとなった。本稿はイベント運営からみたコロナ禍の推移を映す内容ともなっている。

例年、過去にない挑戦を学生たちに要求して来たが、今回は地球環境を悪化させる強力な宇宙人という「個」の悪に対し、地球防衛のため立ち上がった若者たちという「群」が対峙する構図となった。これはメジャー・ローカル含めていわゆるヒーローものの典型とは逆となり、本作品の根幹をなす特色となっている。また弱い人間が協力して強敵に挑むドラマあり、他の天体に流れ着いた宇宙人の悲哀あり、戦いに巻き込まれた結果ヒーローの敵となる地球人のドラマあり、といった具合に、単純な善悪で片づけられない生存競争を思わせる雰囲気となり、全10話とも重厚に展開することとなった。子供には分からないのではないかと不安になりもしたが、実際の反応を見る限りそれは杞憂であった。子供は子供向けに作られたものを見せられるより、大人が本気になったものを見せた方が食いつく、というのが本作を通じて改めて抱いた結論である。

また2022年から新たな試みとして、指導教員の宮古島発掘調査とセットにした、学年を超えた出張ショーを実施した。前号では2022年度生の所見が述べられているので、比べてお読み頂くとイベント

* 城西大学経営学部4年生

** 城西大学経営学部非常勤講師

の様子が複数の視点から立体的に再現できるであろう。更に指導教官の本務校である武蔵大学の学生とのコラボイベントも実施した。地域を超えた活動や、世代間、大学間交流といった試みには手ごたえがあり、今後も継続する予定である。

なお具体的な執筆分担は、文章の末尾に () で記載した。(石井)

2. 活動内容

2-1. 狩俣子供会 (2022年9月17日 沖縄県宮古島市 狩俣集落センター)

我々が運営しているローカルヒーロー『ディフロンターJ』は、地元である坂戸市や坂戸市の近隣など埼玉県を中心に活動している。しかしながらさらに遠方の地域で活動する場合もあり、今回は沖縄県の宮古島市で行った狩俣地区の子供会のコラボヒーローショーについて報告する。

2022年9月13日から9月20日の8日間、石井先生とゼミ生の有志が沖縄県宮古島市にあるクバカ城跡で調査を行いつつヒーローショーを行った。通常は各学年での活動が多いが今回は石井ゼミナールに所属している二年生から四年生が有志として一名ずつ参加し、学年を越えて活動を行った。遺跡の調査は測量や測量を円滑に行うための除草作業を数日にかけて実施した。宮古島市の暑さや不慣れな遺跡調査など普段と異なる点も多かったが問題なく、作業を行った。今回の遺跡の調査により宮古島で形成された独自の文化や風土を直接、肌で感じることができ、学際的な学びを得ることができた。

日中はクバカ城跡の調査を行ったが夕方は合間を縫い、ヒーローショーの練習を行った。今回のヒーローショーは学年や人数など普段と異なることが多く、入念な練習を行った。そして9月17日の狩俣集落の子供会で大勢の子供たちの前でヒーローショーを披露した。熱烈な視線や声援を受けながらヒーローショーを上演し、終了後は握手や写真を求められることもあり、子供たちの思い出に残ったようで非常にやり甲斐を感じた。また3年次の夏まで活動に参加していた『高麗戦士トライ』はキャラクターの配役が持ち回りのため、各自が専門に担当するヒーローはなかったが、今回のコラボヒーローショーから各自で担当する自前のヒーローとなった。加えて私たちが一から作品の概要やキャラクターを企画した『ディフロンターJ』として記念すべき初ステージでもあったため、非常に印象深い。

さらに宮古島市の新聞社から取材を受け、翌朝の新聞の一面となった。今回のコラボヒーロ



図2.1 狩俣子供会でのヒーローショー

ーショーでは地域活性化の選択肢としてローカルヒーローのコンテンツ力や発信力を改めて認識し、年齢や性別を超え、子供たちの交流の一助としての役割を無事に果たすことができた。(野口)

2-2. 北坂戸団地祭 (2022年11月3日 北坂戸団地)

2022年11月3日、北坂戸団地祭に参加し、4年生のヒーロー『ディフロンターJ』全体の初披露目となるヒーローショー第1話を上演した。第1話の公演を成功させるため、初めてのレコーディングに戸惑い苦戦したり、殺陣を自分達で考えたりする事も難しかったが、通し稽古や練習をして、準備を入念に行って臨む最初の公演は、キャラを演じるゼミメンバーも裏方のゼミメンバーもとても緊張していて、不安混じりの実施となった。

本番が始まり、各自練習してきた成果を出し、トラブルも少々起きるも無事に終わることができた。公演後は、地域の子供達だけでなく、大人の方々とも写真撮影を行うなどの交流も行った。反省点は残ったものの、子供達を楽しませる事が出来ていたことは地域貢献に繋がったのではないだろうか。ゼミメンバーとしても、初の自分達の公演を終えて、次に繋がるものを得て、成長できた1日となった。(畠山)



図2.2 北坂戸団地祭でのヒーローショー
1. 集合写真の様子 2. チラシ配りの様子

2-3. 華麗なるカレー博 (2022年11月19日 イオンタウンふじみ野)

2022年11月19日、埼玉県ふじみ野市のイオンタウンふじみ野にて、「華麗なるカレー博」が開催された。日本全国のご当地カレーが一堂に会する一大イベントに、多くの来場者が訪れており、カレー博はとても楽しげな雰囲気であった。そんな中、イベントの一環として、城西大学石井ゼミナールの制作したローカルヒーロー『ディフロンターJ』第2話「狂気の侵略者と孤高の戦士」を上演させていただいた。我々のショーの前には、先輩ヒーローである『レベルJ』の第8話「嘘と真実の境目」が上演された。我々も観覧し、先輩方のハイクオリティなショーを観覧し、自身のショーの向上に役立つ貴重な機会となった。

観客は、先輩方のショーに引き続き見てくれていた子供達が多く、最前列に座り、真剣な眼差しでショーを観覧してくれた。第2話では、『ディフロンターJ』内の部隊である、「輪廻部隊」のヒーロー 輪廻・チェム・フェルコンの三名の初舞台となった。ローカルヒーローショーという慣れない活

動ながらも、リハーサルを重ね、よい舞台に出来たと感じる。反省点としては、まだ感覚を掴んでおらず、動きが少ない、決めシーンでバランスを崩してしまった、等が挙げられる。老若男女問わず、地域の人々に喜んでいただけて、ゼミナールのメインの目的である「地域貢献」と呼べる活動をおこなうことができた。反省点を見直し、改善するといった行動は、社会人となっても重要であると言える。そういったことが学べたという点からみても、実りのあるゼミナール活動にできたと言えるであろう。(萩原)



1

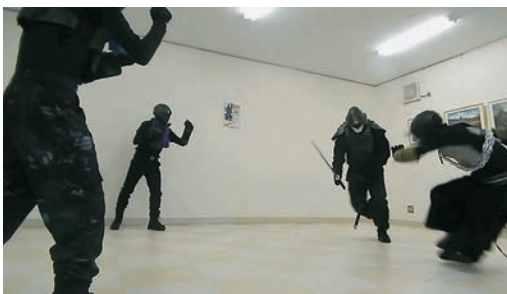


2

図2.3 「華麗なるカレー博」でのステージショー

2-4. 城西大学ローカルヒーローステージ (2023年2月11日 北坂戸にぎわいサロン)

2023年2月11日、北坂戸にぎわいサロンにてヒーローショーが行われた。北坂戸駅から徒歩4分にある城西大学管轄の建物にて、石井ゼミは2年生の『高麗戦士トライ』、4年生の『レベルJ』等のショー後に我々3年生による『ディフロンターJ』の第3話を披露した。まだ2023年に出来て日が浅



1



2

いヒーローであるが、会場内には子供大人ともに集まり、最後の写真撮影会にも子供達が集まる大成功を収めることができた。

まだショーが始まって間もなく、予期せぬトラブルが起こった。殺陣中に演者が転倒してしまったり(図2.4.1)、ベルトがはずれてしまったりした(図2.4.2)。着ぐるみの着こなしチェックや実際のステージを歩



3

図2.4 城西大学ローカルヒーローステージでのヒーローショー
1. 2. ヒーローショー中のアクシデントの様子 3. 集合写真

いて床質を調べるべきだったという反省点があるが、まだ最初期の段階でのトラブルに対しても冷静にアドリブを挟んでショーを続けることができた。これから先地球の未来を守る『ディフロンターJ』の活躍が期待される演技であった。

ショーの後には写真撮影会がおこなわれた(図2.4.3)。まだ始まって1年にも満たない新しいヒーローであったが子供達は写真を撮りに集まってきて、今後の活躍に期待と自信を持つことができる結果となった。(岩田)

2-5. 城西大学ローカルヒーローステージ (2023年5月27日 北坂戸にぎわいサロン)

2023年5月27日、埼玉県坂戸市の城西大学北坂戸にぎわいサロンにて「ローカルヒーローステージ」が開催された。このイベントには我々城西大学経営学部4年生が運営する「ディフロンターJ」と3年生が運営する「神霊戦士ゴーバ」の2つのヒーローが登場し、さらに城西大学水田美術館も参加して、会場に訪れた多くの子どもたちを楽しませることができた。



1



2



3

図2.5 城西大学ローカルヒーローステージでのヒーローショー
1. ステージショーの様子 2. ゲーム大会の様子
3. 水田美術館による浮世絵クイズ大会の様子

当日は、まず3年生が「神霊戦士ゴーバ」第3話『新たな敵、新たな仲間』を上演、その後4年生および城西大学水田美術館によるゲーム大会、次に4年生による「ディフロンターJ」第4話『追憶、そして清算～後編～』を上演、最後に水田美術館による浮世絵版画の摺り体験という流れだった。ゲーム大会にはゲストとして埼玉のローカルヒーロー『英雄収集ツインジャー』さんが駆けつけてくださり、ととにぎやかに行われた。

今回のイベントから、我々4年生がタイムスケジュールを自主的に組み行動することとなり、イベント開催中出番が無い時に、自分達でアイデアを出したグッズ販売や、ヒーローとのチェキ撮影などを行った。様々な課題も出たので次回以降に繋げる良い機会にもなった。本題のヒーローショーではステージと客席がとても近かったが、大きなトラブルや事故が無く終わり、観客の皆様も楽しんで下さったのでとても良かった。(倉田)

2-6. 坂戸七夕まつり (2023年7月15日 坂戸駅北口サンロード商店会内タイムズ駐車場)

2023年7月15日、坂戸七夕まつりが坂戸駅北口サンロード商店会内タイムズ駐車場にて開催された。坂戸七夕まつりは、数々の屋台やダンス、よさこい、ショーなど沢山のイベントがあり、幅広い年代の方が楽しめるビッグイベントだ。夏休みということもあり、多くの子供達がイベントを楽しんでいた。

この坂戸七夕まつりで私たちは『ディフロンターJ』の第5話を公演した。この日は酷暑でコンディション不良だったことや、普段より多くの観客がいる中での公演だったためより緊張感が感じられたが、練習の成果を存分に発揮し、集まっていた多くのの方の前で無事にショーを遂行することができた。

このイベントでは、大人の方は勿論のこと、子供達が多く集まっていて、私たちの公演によって子供たちをワクワクさせ、楽しませることができたことが、この坂戸七夕まつりに参加して良かったと思える点である。控室から会場に行く際、お客さんのすぐ近くを通過して移動するのだが、そこで注目を一斉に集め、盛り上げることができたのが良かったと感じる。

また、酷暑の影響で体調不良で一人が公演に出られなくなるなどのアクシデントがあったが、このことから、何が起きてもその場で瞬時に判断し、協力して物事を進めていくことの重要性を学ぶことができた。

このイベントを通して、観に来ていただいた方々を楽しませ、喜んでいただけたことで自分たちの活動にやりがいを感じる事ができ、地域に貢献できたことに充実感を感じる事ができた。(荒川)



1



2

図2.6 坂戸七夕まつりでのヒーローショー

2-7. 北坂戸イーストフェスin 芦山公園 (2023年7月29日 坂戸市芦山公園)

2023年7月29日に、埼玉県坂戸市芦山町にある芦山公園で「北坂戸イーストフェスin 芦山公園」が開催された。「北坂戸イーストフェスin 芦山公園」は、北坂戸けやき通り商栄会や芦山町町内会の主催で開催された人気グルメ20店以上が集結したフェスである。私たち『ディフロンターJ』だけで

なく、地元のバンドやダンスグループ、よさこいなどのステージショーが行われた。

私たち4年生の作品である『ディフロンターJ』は第6話を公演した。また、3年生の作品である『神霊戦士ゴバ』の第4話の公演も行われた。この日は真夏の炎天下の中、出演者全員の体力と忍耐を消耗したと思われる。しかし、そうした状況でも最後までヒーローショーをやり遂げ、子供連れのご家族や地元住民の方楽しんでいただけたと思う。

良かった点は、暑い中でも演者は最後まで子供たちや地元住民に対して対応をしっかりやれていたことである。写真撮影などの公演以外での対応が出来ていた。公演も大切だがショーを楽しんでくれた子供たちや地元住民の方との接することが最も大事なことだと思う。また、殺陣のシーンでは練習を重ね、ゼミ生で話し合いをしてきたので本番ではミスが目立たなかったことも良かったと思われる。



1



2



3

図2.7 北坂戸イーストフェスでのヒーローショー
1. ステージショーの様子 2. 写真撮影とグッズ販売の様子 3. グリーティングの様子

反省点としては、練習していたときのテントからステージまでの距離が違い、登場シーンのところで遅くなってしまったことである。どんな状況でも全てが練習通りとは限らず、臨機応変に対応しなくてはならないことが反省点だと感じた。

「北坂戸イーストフェスin 芦山公園」でのヒーローショーでは、コロナが明けてチームが一丸となって祭りを盛り上げるための団結力を学ぶことができた。また、私たちだけでなく、他の団体やグループによる特設ステージによる公演もあり地域のため貢献されていた。ゼミナールを超えた団体と

の協力によって地域貢献活動に携われたことが自分たちにとって良い体験になった。社会人になっても外部と協力をしていくことは、将来大切なことであり学ぶべきことであると感じた。(相川)

2-8. 第61回日本SF大会 (2023年8月5日埼玉県さいたま市浦和区 コムナーレ10F 浦和コミュニティセンター)

第61回日本SF大会は2023年8月5日(土)、埼玉県さいたま市浦和区の公共施設コムナーレ10階にある浦和コミュニティセンターにて開催された。日本SF大会は1962年より長く続く企画であり、年に1回開催される。大会という名目ではあるがその実態はSFファンが集まるお祭りのようなものであり、様々な分野の企画持ち込みからなる。



1



2



3

図2.8 日本SF大会でのヒーローショー
1. 2. ステージショーの様子 3. グッズ販売の様子

我々は石井ゼミナールで「ローカルヒーロー」を通じた地域貢献と活性化を目指しており、本大会もローカルヒーローとしての企画参加となった。本企画の参加者は総監督者の石井先生と4年生と3年生、そして武蔵大学からサポート要員となり、学年どころか異なる大学との共同かつ少数人数での参加となった。ステージが公共施設のために本番と同じ環境での練習ができず、ステージの確認が大会当日となったものの、ステージショーはつつがなく終えることができた。物販コーナーも開いており我々石井ゼミもオリジナルグッズの販売を行った。

日本SF大会に参加してよかったと思う点は、今回のシナリオは本大会のためのものであるため、普段ゼミで演じているキャラとは異なるキャラを演じられたことである。私は普段ヒーローを演じて

いるために、純粋な悪役を演じるのは存外楽しいものであった。他にもローカルヒーローの主要ターゲットは子供のため、大人を相手にやる活動というのは新鮮味もありつつ、身を引き締められる体験になったのだと考える。(中村)

2-9. 坂戸竹灯の夕べin泉町桜堤公園 (2023年10月8日 埼玉県坂戸市泉町)

2023年10月8日に、埼玉県坂戸市泉町にある泉町桜堤公園で「坂戸竹灯の夕べ」が開催された。本イベントは、2020年から新型コロナウイルス感染症の影響で延期を余儀なくされ、3年ぶりに開催できたということで、運営スタッフやその他の関係者も相当気合が入っていた。当日も多くの人で賑わっており、スタッフの方々も一安心しただろう。

私たちが本イベントに参加させていただき、『ディフロンターJ』第7話を公演した。初秋ということもあり、過ごしやすい気温だったため、老若男女問わず、とても多くのお客さんが観に来てくれた。

会場はステージが広く、地面も動きやすい芝生だったので、演者一人一人がのびのびと自分の演技をすることができたと思う。また、『ディフロンターJ』のストーリーも佳境であり、1話や2話と比べてみても、演者の動きにより磨きがかかっていた回だった。ただ、待機場所とステージまでの距離がかなり離れていたため、登場シーンが遅れてしまっていた演者が何人かいたことが反省点である。登場が遅くてもダメ、早くてもダメ、この登場のタイミングが今年1年、私たちを苦しめたもののひとつであった。

このイベントを通し、自分たちの苦手な部分を知ることができ、最終回に向けてより一層練度を高めていかなければならないと感じる回だった。(高星)

2-10. 毛呂山産業まつり (2023年11月19日 毛呂山町毛呂山総合公園)

埼玉県毛呂山町にある毛呂山総合公園にて行われた、第30回毛呂山産業まつりに私たち石井ゼミは参加をした。大型トラックの荷台が利用された本イベントでは様々な団体が参加しており、特設ステージでの催し物や屋台が出展されていた。石井ゼミでは4年生の作品である『ディフロンターJ』第8話を特設ステージで披露した。



1



2

図2.9 坂戸竹灯の夕べでのヒーローショー
1. ステージショーの様子
2. 会場の様子

このイベントでうまくいった点は、事前にチラシ配りをしたことであると考えられる。普段は坂戸市を中心に活動をしている為、私たち石井ゼミのヒーローを知らない現地の方々に向け、ショーが始まる前と終わった後にグリーティング（練り歩き）を行った。そして会場に疎らにいた子供たちを中心にチラシを配り、観覧してもらえようとお声掛けを行った。結果、ショーが始まる時には大人も子供も関係なくたくさんの方が観客席を埋め尽くしてくれた。

ショーの中で特に盛り上がりを見せた所は殺陣のシーンであった。チラシを見ながらお気に入りのヒーローたちの名前を応援する子供たちの声が会場を大いに盛り上げたのだと感じた。ショーが始まる前にヒーロー達の詳細が書かれたチラシを配ることで、子供たちが推しのヒーローを探ることができ、応援に力を入れることができた為盛り上がりを見せたのではないかと私は感じた。ショーが終わった後の写真撮影でも多くの人に撮っていただき、集合写真撮影後に個人で撮影をしに来てくれた方々の中にも、ヒーローの名前を覚えてくれていた方がおり、ショーとして成功を取めたのではないかとと言える。私たち一同もとても達成感の得られたイベントであったと思える。

反省すべき点は三段あったステージをあまり活用できなかったことである。練習時にステージの1番下を利用することを意識していなかった為、本番当日に急遽各々の登場するシーンや移動する時などを変更して行った。緊急で変更したこともあり、三段あるステージという特徴をあまり生かせずに終わらせてしまったという反省点があった。

最後に本イベント又ゼミ活動を通して、チームで一つの大きな作品を作り上げることの大変さやショーが終わった後の達成感を体験することができ、また自分達で考えて行動する自主性を身につけられたのではないかと考える。(蘭)

2-11. 坂戸イルミネーション点灯式 (2023年12月3日 坂戸駅北口サンロード商店会内タイムズ駐車場)

坂戸駅北口サンロード商店会内タイムズ駐車場で行われる坂戸市毎年恒例のクリスマスのイルミネーション点灯式で、私たち4年生は『ディフロンターJ』の第9話を披露した。最終回の前の話であって内容も加速しており、初見の方には理解しにくい部分が多かったが、殺陣の迫力や演技力のクオリティが高かったため、会場は大きな声援と共に盛り上がりを見せていた。



1



2

図2.10 毛呂山産業まつりでのヒーローショー

1. ステージショーの様子

2. 集合写真の様子

良かった点は、練習の期間が2週間ほどしかなく、殺陣や演技の修正点がいくつもあり、良いステージショーになるか不安だったが、当日は大きなミスもなく良いステージショーになったと思えた。また、子どもから大人まで色々な層のお客さんたちが観覧をしにきてくれて、多くの人たちを楽しませることができ、大盛り上がりなイベントとなった。

反省すべき点は、点灯式というのもあって、ショーの時間帯が遅く、暗い中でのステージショーとなった。視界も悪く、細かなミスが多く感じた。どんなイレギュラーな場面でも対応できるように対策をしていきたいと思った。

ゼミ活動を通して、チームでひとつのことを成し遂げる大変さや成し遂げたことで得られる達成感を体験することができた。この経験したことをバネに社会に出て活躍できる人間になりたい。(平井)



1



2

図2.11 坂戸市イルミネーション点灯式でのヒーローショー
1. ステージショーの様子 2. 集合写真の様子

2-12. 坂戸児童センタークリスマス会 (2023年12月22日 坂戸児童センター)

2023年12月22日、坂戸児童センターのクリスマス会が行われた。我々、石井ゼミナールは他の団体とともに当イベントに参加し、『ディフロンターJ』第10話「諦めない心」(最終話)』を披露した。このイベントには昨年も参加させていただいており、事前に石井先生から伺っていた通り、会場は楽しみにしてくれているお客さんで埋め尽くされていた。児童センターということで、客席は子どもたちが多く、過去最高とも言える集客であったと思われる。

ステージショーにおいては苦勞した点や反省点も多くあった。第9話の公演を12月頭に行ったことにより、第10話に向けての練習時間を十分に確保することができず、その短い期間の中でレコーディングから殺陣作り、練習までを行わなくてはならなかった。そのため演者の演技に不安が残ったままでのステージであったが、本番では目立ったミスは無く無事に公演を終えることができた。これはいままでのヒーローショーでの経験を活かしたもので、ここまで自分たちが成長できたことに喜びを感じた。

ステージの後には、お菓子やクリスマスカードのプレゼント配りと、来場者の方々との写真撮影会が行われた。チラシやカードは盛況で全て配り終えることができた。プレゼントを貰ったり、一緒に

写真を撮ったりしてくれた方々の中には笑顔で嬉しそうの方も多く、子供たちに少しでも喜んでもらえる活動ができたことを感じたことで、3年次から行ってきた自分たちの活動に自信を持つことができた。今回のイベントに限ったことではなく、石井ゼミナールでの活動で経験したことは自分自身の成長に確かに繋がっていると思う。(新井)



1



2

図2.12 坂戸児童センタークリスマス会でのヒーローショー
1. ステージショーの様子 2. 集合写真の様子